ACIでの不正/COOP例外リストの設定

内容

はじめに

例外リストを使用する理由

解決方法

前提条件

不正/COOP例外リストの設定

<u>検証</u>

はじめに

このドキュメントでは、ACI(アプリケーションセントリックインフラストラクチャ)の不正/COOP例外リスト(ROGUE/COOP Exception List)機能について説明し、設定と検証について説明します。

例外リストを使用する理由

ACIの「不正EP制御」機能は、発生した特定のブリッジドメイン内のエンドポイントを隔離することによって、一時的なループの影響を最小限に抑えます。ただし、この機能によって不要な中断が発生する場合があります。たとえば、ファイアウォールのフェールオーバー中に、両方のファイアウォールが同じMAC(メディアアクセス制御)アドレスを使用して一時的にトラフィックを送信し、ネットワークが収束するまでエラーが発生する可能性があります。5.2(3)より前のリリースでは、ACIが4つのEP(エンドポイント)が60秒以内に移動したことを検出すると、その後はスタティックに設定され、次の30分間は移動できなくなります。60秒で4回移動する方法は、一部の導入では現実的です。30分のホールドタイムは、EPの移動が予想されるシナリオではアグレッシブです。

解決方法

この問題に対処するために、「Rogue/COOP Exception List」を設定できます。 MACアドレスは、例外リスト内で、より高いしきい値の基準を使用して不正を検出します。例外リストで設定されたMACは、10分間隔で3000回移動した後に不正になります。例外リストのMACアドレスは、COOP(Council of Oracle Protocol)の減衰しきい値を高くすることで、COOPで減衰するのを防ぎます。例外リストには最大100個のMACアドレスを追加できます。

前提条件

- この機能は、5.2(3)以降のバージョンで利用可能です
- このオプションは、BD(ブリッジドメイン)がL2 BDである場合(BDがIPルーティング用 に設定されていない場合)にのみ使用できます。
- Rogue Exception Listの動作が動作するためには、不正機能を有効にする必要があります。

不正/COOP例外リストの設定

この機能をレイヤ2ブリッジドメイン(L2 BD)で使用すると、正当な移動によって特定のMACアドレスが不正としてフラグ付けされるのを防ぐことができます。

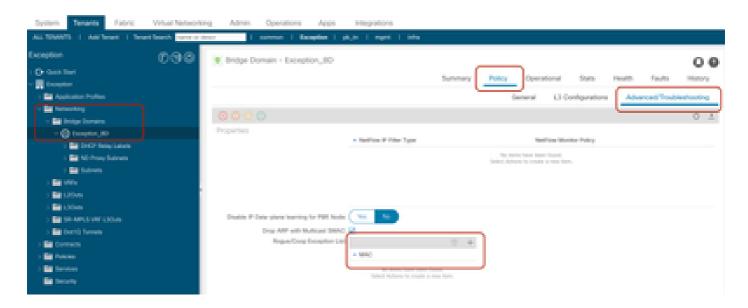
APIC(Application Policy Infrastructure Controller)GUIを使用した設定

設定するには次の操作をします。

ステップ 1: Cisco APIC GUIにログインします。

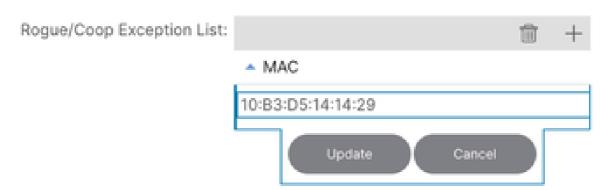
ステップ 2: テナント>ネットワーキング>ブリッジドメイン> BD >ポリシー>詳細/トラブルシューティングタブに移動します

このページでは、例外リストにMACアドレスを追加できます。



ステップ3:+アイコンを選択して、Rogue/COOP例外リストにMACアドレスを追加します。

ステップ4:MACアドレスを追加して更新します。



この機能をデモンストレーションするため、テナント例外およびブリッジドメイン(BD)BD例外内に、MACアドレスが10:B3:D5:14:14:29のエンドポイントがACIファブリックに接続されています

このドキュメントの「Rogue/COOP例外リストの設定」セクションの例外リストにMACアドレスを追加すると、管理対象オブジェクト(MO)クエリmoquery -c fvRogueExceptionMacを使用して設定を確認できます。

APICOCLI:

<#root>

bgl-aci04-apic1#

moquery -c fvRogueExceptionMac

Total Objects shown: 1

fv.RogueExceptionMac
mac : 10:B3:D5:14:14:29

annotation :
childAction :

descr :

dn : uni/tn-Exception/BD-Exception_BD/rgexpmac-10:B3:D5:14:14:29

extMngdBy :
lcOwn : local

modTs : 2024-07-17T04:57:04.923+00:00

name :
nameAlias :

rn : rgexpmac-10:B3:D5:14:14:29

status :
uid : 16222
userdom : :all:

bgl-aci04-apic1#

リーフCLI:

このクエリーは、不正例外リストに適用されるタイマーを提供します。

<#root>

bgl-aci04-leaf1#

moquery -c "topoctrlRogueExpP"

Total Objects shown: 1

topoctrl.RogueExpP

childAction :

descr :

dn : sys/topoctrl/rogueexpp

1cOwn : local

modTs: 2024-07-13T15:51:57.921+00:00

name :
nameAlias :
rn : rogueexpp

status :

moqueryを使用すると、特定のMACが例外リストに追加されたことを確認できます。

<#root>

bgl-aci04-leaf1#

moquery -c "l2RogueExpMac" -f 'l2.RogueExpMac.mac=="10:B3:D5:14:14:29"'

Total Objects shown: 1 # 12.RogueExpMac

mac : 10:B3:D5:14:14:29

childAction:

dn : sys/ctx-[vxlan-2293760]/bd-[vxlan-15957970]/rogueexpmac-10:B3:D5:14:14:29

1cOwn : local

modTs: 2024-07-17T04:57:04.939+00:00

name : operSt : up

rn : rogueexpmac-10:B3:D5:14:14:29

status :

bgl-aci04-leaf1#

リーフCLIから例外リストのパラメータを確認するには、次の手順を実行します。

<#root>

module-1#

show system internal epmc global-info | grep "Rogue Exception List"

Rogue Exception List Endpoint Detection Interval : 600 Rogue Exception List Endpoint Detection Multiple : 3000

Rogue Exception List Endpoint Hold Interval : 30

module-1#
module-1#

EPMCで学習されたエンドポイントを確認し、そのエンドポイントの移動数も確認します。

リーフCLI:

<#root> module-1# show system internal epmc endpoint mac 10:B3:D5:14:14:29 MAC : 10b3.d514.1429 ::: Num IPs : 0 Vlan id : 9 ::: Vlan vnid : 8193 ::: BD vnid : 15957970 Encap vlan : 802.1Q/101 VRF name : Exception:Exception_vrf ::: VRF vnid : 2293760 phy if: 0x1a015000 ::: tunnel if: 0 ::: Interface: Ethernet1/22 Ref count : 5 ::: sclass : 16386 Timestamp: 07/17/2024 05:20:20.523019 ::: Learns Src: Hal EP Flags : local|MAC|sclass|timer| Aging: Timer-type : HT ::: Timeout-left : 784 ::: Hit-bit : Yes ::: Timer-reset count : 0 PD handles: [L2]: Hdl : 0x18c1e ::: Hit: Yes ::::

例外リストの構成を確認するには、次の手順に従います。

リーフCLI:

module-1#

<#root>

module-1#

show system internal epmc rogue-exp-ep

BD: 15957970 MAC:10b3.d514.1429

 $[01/01/1970 \ 00:00:00.000000]$: 0 Moves in 60 sec

module-1#

APIC GUIのOperations > EP tracker、Search MAC addressでエンドポイントの移動を確認できます。

End Point Search



このMACアドレスに対する移動は引き続き存在しますが、このエンドポイントに対する不正フラグは存在しません。

これはコマンドで確認できます。

リーフCLI:

リーフepm (エンドポイントマネージャ)の学習エンドポイントに不正フラグが追加されているかどうかを確認するには

<<< Once if endpoint is rogue a Rogue flag is added

<#root>

bgl-aci04-leaf1#

show system internal epm endpoint mac 10:B3:D5:14:14:29

MAC : 10b3.d514.1429 ::: Num IPs : 0

Vlan id : 9 ::: Vlan vnid : 8193 ::: VRF name : Exception:Exception_vrf

BD vnid : 15957970 ::: VRF vnid : 2293760 Phy If : 0x1a015000 ::: Tunnel If : 0

Interface : Ethernet1/22

Flags: 0x80004804 ::: sclass: 16386 ::: Ref count: 4

EP Create Timestamp : 07/17/2024 05:19:10.424033 EP Update Timestamp : 07/17/2024 05:22:03.674624

EP Flags : local|MAC|sclass|timer|

bgl-aci04-leaf1#

APICOCLI:

::::

不正エンドポイントエンドポイントでエラーが発生したかどうかを確認します。

<#root>

bgl-aci04-apic1#

moquery -c faultInst -f 'fault.Inst.code=="F3014"'

No Mos found

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。